

## 初春のお慶びを 申し上げます

令和3年を迎えました。

昨年から新型コロナウイルス感染症の広がりにより、これまでの日常が大きく変わってしまいました。

冬になり全国的に再燃している中、経済だけでなく様々な生活様式に至るまで、私達一人ひとりの暮らしにこれからも甚大な影響を及ぼすことと思われます。まずはワクチンなどの誕生が待ち望まれますが、いずれにしても個人でのマスクや手洗い、うがいなどの対策をしつつ、可能な限りの経済活動を行っていかねばなりません。

私達も議会と行政、力を合わせてこの未曾有の脅威に対して、市民生活を健康面、経済面から支えるために頑張ってお参ります。

## 12月定例会が開催されました

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、市民生活、経済活動を継続し続けるためにさまざまな取り組みを行ってきました。9月補正予算総額81億円に続き、12月補正予算として、一般会計で9億3,636万円が計上されました。

### 12月補正予算の主な事業

#### ● 介護・障害者施設に対する新型コロナウイルスPCR検査支援事業

介護や障害者施設での感染拡大を防止するために、入所者や施設従事者に対してスクリーニング目的でのPCR検査を無料で実施するための経費として、1億8,000万円を計上しています。

#### ● 中小企業融資信用保証補填

3月から実施している景気対応資金融資(危機関連保証・セーフティーネット保証4号)の大幅な増加に対応するため、保証料補填予算の増額経費として、1億9,000万円が計上されました。

#### ● 避難所における感染症対策事業

避難所において、発熱者等の専用スペースを確保するためのパーティションの設置や消毒液等の備蓄物資購入に要する経費として、680万円を計上しています。

# 12月定例会で一般質問を行いました

9月定例会に続き、12月定例会でも一般質問の機会を得、今期最後の1時間枠を使っての本会議質問を行いました。今議会で行った質問は以下の通りです。紙面の都合上、要約を掲載いたします。

## 一般質問① 部活動の在り方について

### ● 拠点校型の部活動について

昨年2月に行った議会質問で、学校同士の部活動を合同で行う「合同部活」と、行きたい部活動の無い学校から、行きたい部活動がある学校に行くことのできる「拠点校型部活」について、制度を作ることができないか質問を行いました。その後の進展について質問しました。

現在「部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に拠点校型の部活動についての議論が盛り込まれるようになり、今後議論が進むことになりそうですが、制度が出来上がるまでには様々な課題が出てくること議論から明らかになりました。

ただ、今後さらなる少子化が進む中で、多くの生徒が中学校でやりたい部活動ができないという状況が増えることが予想されるため、早急な課題の整理と制度設計を求めました。

### ● 部活動の休日について

スポーツ庁が示した「部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」には、合理的かつ効率的な活動を推進する取り組みとして、心身の健康管理やスポーツ医・科学の検知などから適切な休養をとることが示されています。これに基づき本市も、ガイドラインで部活動は平日1日2時間、土日祝日は3時間程度、休養日を週2日取ることを指導しています。

本市ではありませんが、こうしたガイドラインを破って本来休養日として休みを取らなければならない日にも集まり、事実上、「闇部活」として部活動を行っている、という報道がありました。また、試験休みなどがあるからと、部活動を連続して行うということもあるようです。生徒たちの長時間活動の弊害や心身の休養が取れない、という事がないように改めて学校に対して指導の徹底を求めました。



## 一般質問② 定住人口について

昭和38年、人口103万2,000人で誕生した本市は、昭和54年に人口106万8,000人を記録したのち人口減少へと転じ、令和2年9月時点の推計人口は93万5,000人となりました。北橋市長時代になって人の流入はほぼ均衡状態に近づくほど改善したのですが、高齢化の進展で亡くなる人の数が激増する反面、少子化の影響で生まれる人の数がピーク時の半数以下となり、人口減少の要因はこの間大きく変化しているのが現状です。

人口の流入を均衡までもってきたことは評価しつつも、全体としての人口減少には歯止めはかかっておらず、考える更なる手立ては必要です。本市は市外からの移住を促進するべく、「住むなら北九州 定住・移住促進事業」という制度を設けています。これは市外からの移住と、市内に住みながら市外で働く若年世帯に対して住宅を購入する際に補助をする仕組みで、同じような制度は近隣他都市でも存在しております。一方、北九州市内に住みながら市内で働いている人たちが住宅を購入するときには適用されません。これでは市内では補助がもらえないからと一旦市外に住んで住宅を建て、補助を貰おうと考える方が出てきます。これは人口流出の要因となる可能性もあるため、市内に定住しようとする人たちには市外だろうが市内だろうが補助制度を設けるべきではないか、という提案を行いました。

## 一般質問③ 投票率の向上について

動画をチェック!



こちらから↑



# 認知症相談・支援施設の 一般質問④ 本市西部地区への設置について



厚生労働省によると、2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になると予想されています。本市では認知症や高齢者、その家族を支援する団体や施設が整備されるなど他都市に先駆けての取り組みを行っています。

その中でも、北九州市認知症支援・介護予防センターは年間2万5,000人近くが利用する本市における認知症の基幹的な施設です。この中にある「カフェオレンジ」は認知症患者と家族の為の支援相談施設として常設で設置されています。

ただ、本市で最も人口の多い八幡西部地区にこうした常設の認知症支援施設が無く、認知症患者を支える家族から「カフェオレンジ」の設置を求める声が強くなることから、施設設置の必要性を説き、市に対して要望を行いました。

# 一般質問⑤ 折尾地区の未来について

平成16年、折尾駅周辺連続立体交差事業や街路事業の都市計画が決定され、折尾駅を中心とした鉄道の高架化、周辺道路の拡幅、土地区画整理事業などが着手されました。

そしていよいよ折尾駅の新駅舎は1月2日から開業されます。

折尾地区は4つの小学校、4つの中学校、5つの大学、2つの短大、折尾駅を利用する学術研究都市を含めると、さらに7つの大学と大学院を擁する、本市最大級の学園都市です。

土地区画整理事業による建物の高層化などで人口の増加が見込まれている中、本市西側の拠点としての新たな役割として、人口流出を食い止める防波堤としての役割が求められると考えられます。市として単なる区画整理や道路の拡幅ということではなく、都市戦略として折尾地区の整備を求めました。

また、鉄道の高架化により周辺の渋滞も劇的に緩和され、利便性が一気に高まる折尾駅周辺ですが、折尾駅を挟んで高須、浅川などの北側と則松や北筑、永犬丸など南側ではバスなどの公共交通の格差があります。今後、折尾地区の発展を持続させるためにも、折尾駅を中心とする南北の公共交通体系をしっかりとしたものに拡充を検討すべきではないかと市に提言しました。



# 一般質問⑥ 空港アクセス道路について



動画をチェック!

こちらから↑

大久保むがが取り組んできたことや、考えていること、将来ビジョンなどをどんどん発信中!動画をチェック!!!

皆様から与えられた任期の最後まで市議会議員として全力を尽くします!



こちらから▲



# 月刊 北九州市議会議員 大久保むが

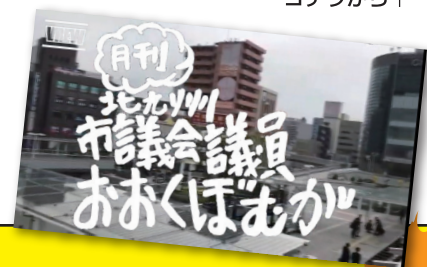
You Tube にて  
動画配信中!!



コチラから↑

議会での一般質問や、関心を持って視察や勉強に取り組んだ事、市内での気になる話題であったり、紙面や文字だけでは伝えきれない情報などについて、解説しながらお伝えする、「月刊 北九州市議会議員 大久保むが」をYoutubeにて配信しております。お陰様で46回以上の番組を制作することができました。

まだまだ皆さんに分かりやすく情報を伝えることができるよう努力して参ります！是非ご覧いただき、応援してください！



## (直近)タイトル

- vol.29 「北九州市の水道はここがすごい!」
- vol.30 「市からのお知らせ7月号」
- vol.31 「くらべてみれば若戸大橋」
- vol.32 「北九州市 次世代育成環境ランキング1位に!」
- vol.33 「市議会だより編集集中!」
- vol.34 「夏休み特別企画 太陽の力でポップコーン作ってみる!」
- vol.35 「障害者ワークステーション exported」
- vol.36 「子どもを虐待から守る条例 施行から1年!」
- vol.37 「大久保むが無所属になる」
- vol.38 「ハローキティからのお願い 市からのお知らせ9月号」
- vol.39 「市議会議員へいろいろ相談してみてもこんな感じでやってください。」
- vol.40 「ガンダムのプラモが~!!」
- vol.41 「ステイホーム手作りピザキットでピザづくりに挑戦!!」
- vol.42 「インターンに参加してみた感想を聞いてみた」
- vol.43 「ふうせんのフリック くわきりょうさんがゲスト」
- vol.44 「わくわくしようぜ!北九州」
- vol.45 「動画も市政レポートも45号」
- vol.46 「経世済民のためにがんばる 市政レポート45号その3」

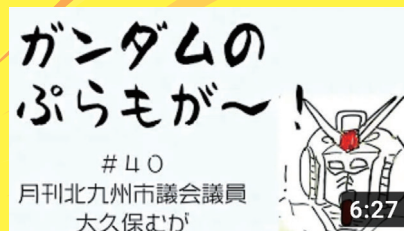
vol.29 「北九州市の水道はここがすごい!」



vol.34 「夏休み特別企画 太陽の力でポップコーン作ってみる!」



vol.40 「ガンダムのプラモが~!!」



番外編 「わた菓子機をつくってみた。」



vol.44 「わくわくしようぜ!北九州」



vol.46 「経世済民のためにがんばる 市政レポート45号その3」



## 北九州市議会議員 大久保むがプロフィール

昭和63年枝光小学校卒業。平成3年枝光北中学校卒業。平成6年福岡県立北筑高等学校卒業。平成10年九州国際大学国際商学部卒業後、平成12年から衆議院議員・北橋健治氏の秘書に。その後、さらなる政治の勉強をするため、平成18年北九州市立大学・法学研究科に入学、政策科学を学ぶ。勉学のかたわら、参議院議員・大久保勉氏の秘書を平成19年まで務める。平成20年3月、北九州市立大学・法学研究科を卒業。同時にヘルパー2級取得。平成21年北九州市議会議員に初当選、総務財政委員会に所属。2期目前半に環境建設委員長に就任。3期目前半に教育文化委員会。現在は建設建築委員会の委員長。国民民主党福岡県第9区総支部常任幹事、NPO法人「KID's Work」スタッフ。

### 大久保むが事務所

〒807-0831 北九州市八幡西区則松2-9-2 Tel 093-980-6806 Fax 093-980-6807  
<https://www.mugamuga.net/> E-mail yahatanishi@mugamuga.net



◎この市政レポートは、市議会各派に交付される政務活動費や、皆様から頂いた寄付金などを用いて発行しています。  
 ◎重複して送付されたり、宛名変更がある場合は、お手数ですが大久保むが事務所までご一報ください。